

ヴォックス音楽吟詠会



第67号

令和2年5月7日発行

会員ニュース

総本部広報委員 谷口裕華

令和元年度第11回総会開催延期

去る3月12日(木)令和時代最初のヴォックス音楽吟詠会総会が静岡県熱海市ニューウェルシティ湯河原ホテルを会場に、開催予定で御座いましたが、新型コロナウイルスの影響で延期決定を致しました。ご理解ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。2年度の事業等は新型コロナウイルスが終息後ご連絡申し上げます。

新年度挨拶草薙典龍総本部長



令和になって初めての元旦を迎えました。

この「令和」はご承知の通り「時に初春の令月にして、

気淑く風よ和やわらぐ」の万葉序文から命名されて居ります。

ヴォックスはこの風情ある心の豊かさを大切に、世界に誇る武士の生んだ吟詠道の更なる発展を目指して参りたいと念じて居ります。お陰さまで昨年度は信州松本で令和を迎えた年と合間って、創立四十周年記念大会が盛大に開催され、ヴォックスの忘れ得ぬ歴史の足跡と成りました。

四十一年目の本年はスポーツの祭典オリンピックが日本で開催される予定で有りましたが、コロナウイルス拡散防止の為延期となり、日本の価値ある詩吟などの伝統文化が来日の方々に触れていただく絶好の機会が有りましたが、残念ながら叶えられませんでした。

ヴォックスの皆様のご活躍と変わらぬ本会へのご協力をお願い申し上げます。私の挨拶と致します。

新年度にあたり小井鶴伸事務総長挨拶



「感謝と期待」

昨年の総会（平成 31 年 3 月 14 日 2019 年）で小芝誠範先生が一身上のご都合により退任され、代わって副事務総長にあたりました小井が、事務総長の大役をお引き受けすることになり早一年が経過しました。時の速さを実感する一年で有りましたが、何も分からずこの大役をお引き受けした事に対し、今更ながらその任の重大さと困難さの壁にぶち当たって居ります。

もとより浅学菲才の私に務まる訳では御座いませんが、ご指名を頂きました以上伝統あるヴォックス音楽吟詠会の運営に、全力投球で当たる事を心に誓い、各地区本部長様、事務総局の皆様方には、大変ご不便をお掛けしました事、また各事業の実施に当たって絶大なご協力を賜りましたこと、改めて厚く御礼申し上げます。

特に 40 周年の名流大会においては、信越地区本部長中山国洲先生、副本部長兼事務局長飯島真道先生の地域でのご信頼の中、内容ある素晴らしい記念大会が、盛会裏に大過なく開催出来ました事、重ねて御礼申し上げる次第で御座います。また本部役員として裏方の大役を果たして下さいました事務総局の先生方、それぞれのお立場できっちり責任を果たして頂き、本当に有難う御座いました。更に例年の事業として、各地区大会及び全国決勝大会の円滑且スピーディーな演出、CD の吹込み事業、CD のご購入と配付につきましても、快く、ご協力下さいました事、感謝申し上げます。さて、令和 2 年度の運営・事業推進・財務計画及び体制（組織）の改善改革等、吟会の現状を踏まえ色々の課題が有ります。その大きな課題は会員の高齢化に伴う減少です。南雲一廣先生の信条を犯すことなく、組織の疲弊を招かないようワンチームの精神で慎重熟慮を重ね、為すべき事は大胆に実行していかねばならないと思います。

今後とも役員・会員皆様のご支援のもと、ヴォックス音楽吟詠会の益々の発展に務めて参りたいと存じます。

最後になりますが会員各位のご健勝をお祈りし、関係業者皆様のご協力に感謝し、今後のご支援を念じて挨拶とします。

新年度にあたり三ツ谷静楼会計委員挨拶



ヴォックス音楽吟詠会の全国の会員の皆様、いつもお世話に成っています。日頃は会計業務にご協力くださり、誠に有難う御座います。ヴォックスの発展を会計という視点から協力出来れば、と思っております。健全な会計、明瞭なそして透明な会計業務をモットーとしています。皆様ご存知のように、年会費および CD 売上がヴォックスの大きな収入源であります。

会員の皆様から預かった大切なお金を、ヴォックスの健全な活動の為に有効に

活用する ことが小生の使命と思っています。

昨年の信州・松本で開催されましたヴォックス名流 40 周年記念大会では会計担当として、またプログラム作成担当として携わらせていただきました。会計面では不足分を従来の積立金を取り崩して充当しましたが、各地区本部長さんからも多大なるご祝儀をいただき、本当に有難う御座いました。

無事終了出来たのは会員皆様のご協力があったこそ、と感謝しています。そして中山国洲先生、小林丹風先生はじめ信越地区の皆さんの献身的な協力が有り、また、関勝風先生始め群馬地区から多くの皆様が大会にご参加下さいまして、大いに盛り上げて頂きました。

ヴォックスの更なる発展の為微力ながら協力をさせていただく所存です。今後共宜しくお願い致します。



全国名流吟剣詩舞の集い



ヴォックス音楽吟詠会創立 40 周年記念「全国名流吟剣詩舞の集い」が、令和元年 11 月 17 日(日)に長野県松本市ホテルヴェナビスタに於いて、開催されました。

ヴォックス音楽吟詠会総本部が主催、信越地区本部が主管として行われました。当日は初冬の日本アルプスの山々に迎えられ、全国の先生方が早朝から、ご参加頂きました。

午前中は、第一部～第五部まで、ヴォックス音楽吟詠会正会員による、吟剣詩舞が行われ、日本伝統芸能の吟剣詩舞の素晴らしさに感銘を致しました。

式典の中においては、小芝誠範先生、草薙麗堂先生に感謝状が贈呈されました。

先生方の永年のご尽力に感謝し御礼申し上げます。有難う御座いました。

第六部では、文部科学大臣賞受賞者の素晴らしい吟詠を聴かせて頂きました。

第七部から、各地区本部構成吟に入りました。各地区本部長を中心に練り上げた吟剣詩舞は、さすがの成果で感銘致しました。

最後に万歳三唱で締め括り、閉会しました。

続いて祝賀会が行われ、楽しい有意義な日になりました。

皆様方有難うございました。

信越地区本部長 中山国洲

令和元年度 第40回全国吟詠コンクール決勝大会



令和元年9月29日(日)名古屋市瑞穂文化小劇場ホールに於いて全国地区大会を勝抜いた124名と6組(合吟)の吟者が文部科学大臣賞トロフィーを目指し競い合いました。



舞台も整いました



全国各地区出場者受付

目指せ！栄冠を



審査説明



いよいよ競吟開始

喜びの優勝者・準優勝者の皆さん



第一部優勝 播磨地区代表 横山百音

私は小学五年生です。三才の時、一つ下の弟と一緒に祖母に習い始めました。父と母もしています。

母のお腹の中にいる時から聞いていたそうなので詩吟の音が子守唄のようで大好きです。

お稽古も好きで、大会前は母と毎日していました。

これまでに、色々な大きな大会や発表会に出ているので、舞台に立つのが楽しくて、ほとんど緊張しなくなりました。

大会本番も緊張せずに、堂々と全力で吟じる事が出来ました。

優勝出来てとてもうれしかったです。祖母もとってもよろこんでくれました。いつも応援して下さる吟道賀堂流宗家磯部賀堂先生にも、とてもよろこんでいただき、うれしかったです。

目標は、祖母の様に上手に吟じることです。これからも家族で詩吟を楽しんで、もっともっと上手になれる様に努力していきます



第二部優勝 東京地区代表

原田理絵

詩吟を始めて四年が経過し本年度はヴォックス音楽吟詠コンクールに初挑戦させて頂きました。

コンクールに向けて目標を持って練習する事で課題が明確になり、自分自身の詩吟に正面から向き合う事が出来ました。

また、講評では沢山の知識を吸収し受賞以上の収穫を得る事が出来ました。大会実行委員の先生方にも心から御礼申し上げます。

私は詩吟を始めてから前よりずっと自分を好きになる事が出来ました。詩吟を通じて多くの方と年齢や性別を越えて触れ合い、諸先生方に人としての在り方（礼儀）を教わり、同門の先輩達とのお喋りは自分の居場所が出来たようでとても嬉しく思っています。

そんな居心地の良い環境で詩吟を学べる事に宗家をはじめ母親の様な慈愛で包んで下さる先生や先輩に感謝しております。

練習を積み重ねゆくゆくは諸先生方と同じ様に詩吟の愉しさを伝える存在になりたいと思います。この度貴重な経験を有難う御座いました。

第三部優勝 群馬地区代表 越谷桂子



今年は令和となり初めての全国大会で、このような記念すべき年に優勝することができ大変嬉しく感じて居ります。

長年吟詠を続けて来て、やっと念願の「優勝」という栄誉を頂く事が出来ました。

出番が近づくとつれて鼓動が早くなってくるのを感じつつ、「やらなければ、やってやるぞ」という気持ちでマイクの前に立ちました。

すると、不思議と先ほどまで感じていた緊張が消えて落ち着く事ができ、平常心で吟じる事が出来ました。審査結果発表で自分の名前が呼ばれ、ましてや優勝という結果に、「まさか！」と思いきりかけず名誉ある賞を頂き、夢のようでした。この感激は、一生忘れることは出来ません。これからもまた、国壮流の宗家先生はじめ諸先生方の温かいご指導のおかげと、大変感謝申し上げます。今後は、私の課題である豊かな声量と詩情の表現を目標に一層努力し、皆さんに感動を与えられるような吟を目指して精進してまいりたいと思います。ご指導の程宜しくお願い致します。

第三部準優勝 播磨地区代表 太田理子



私はヴォックスの大会に初めて参加させて頂きました。思いがけず、全国大会に出場でき、その上「準優勝」をいただき自分でも信じられませんでした。本当に有難う御座いました。

この名誉ある賞に恥じぬよう、これからもっと精進をかさねていこうと、気持ちを新たにしております。

地区大会・全国大会を通じて、多くの良い刺激を与えられ、又、先生方からも温かいご指導を頂きました。

本当に詩吟を愛し大切にしていらっしゃる、皆さまの思いを実感出来ました。それと同時に、自分の吟の未熟さも痛いほどわかりました。初心にかえり、詩をしっかりと理解し、その詩情が表現できるよう、練習を重ねるつもりです。そして、また来年の全国大会を目指します。私達出場者のために、この素晴らしい舞台を準備して下さった、大会の役員の皆様と諸先生方、本当に有難う御座いました。

第四部優勝・文部科学大臣賞 中部地区代表 森 民夫

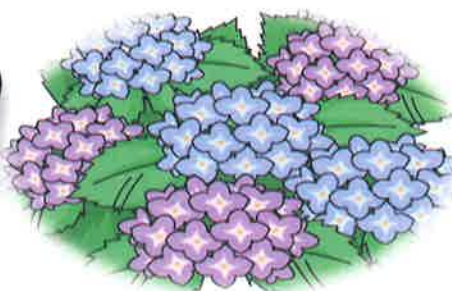


今年は今和初めての全国大会に10回以上チャレンジさせて頂き、全国大会へも数度選抜頂きましたが、息絶えに絶句、誤読と冴えない内容ばかりでした。「今年は失敗をせず何とか上位入賞したい！」という強い気持ちで会場に向かいました。

第四部は開始早々の出吟でした。

思ったよりもずっと早い出吟で、あっという間に終わってしまったという感じです。でもただひたすらに日々諸先生からもご指導頂いた事を、いま自分の出来る事を無心で吟じた気がします。結果、思いも掛けない文部科学大臣賞！！まさかとの思いでした。

当日ご来場頂いた沢山の方々からの応援も本当に嬉しく思いました。又この大会に携わっていただいた関係諸先生方にも厚く御礼申し上げます。今回の受賞に恥じない様にこれからも益々精進致します。ご指導よろしくお願い致します。有難う御座いました。



第四部準優勝 近畿地区代表 伊丹悠二

令和の新年度でもあり、ヴォックス音楽吟詠会第40回全国大会の記念の年に、有難くも準優勝に輝かせて頂き驚きと喜びいっぱいです。

天翔流吟詠会で吟の世界に初めて入り、はや23年に成ります。全国大会に幾度か挑戦しましたが、

中々賞には届きませんでした。

しかしながら、吟の大師匠、諸先生方に恵まれてたご指導のおかげで、鍛錬に鍛錬を重ねて、今日に至る事が出来ました。

ただただ感謝でいっぱいです。

今後、更に吟道を磨き心豊かに詩情豊かな深みのある吟へ進化したいと思っています。

諸先生方役員先生方に厚く御礼申し上げます。

誠に有難う御座いました。



第五部優勝 神奈川地区代表 横井文夫

去年は緊張から絶句してしまい失格、今年の表彰式でも中々名前が呼ばれず諦めかけていたが、最後に名前が呼ばれ「まさか！！」と思ったら優勝だったので、とても嬉しかったです。これを新たなスタートとして、人々に伝えられる詩吟を広めるお手伝いが出来ると思い感激しています。

吟詠は、言葉が明瞭で美しい日本語であれ、これが私の目指すところとして精進して来ました。そして詩吟にはそれが無ければと方向づけてきました。ここで改めて故南雲一廣先生の信条にふれヴォックス音楽吟詠会に出逢えた本当の嬉しさで胸に熱いものを感じています。

ヴォックス音楽吟詠会に出逢えるご縁を頂きました山室瑞山先生には本当に有難く厚く心から感謝申し上げます。

まだまだ未熟な私ですが、ヴォックス音楽吟詠会の目指す処へどこまでも就いてまいります。また、そのお手伝いが出来れば私の望む幸せです。



第五部準優勝 播磨地区代表 山端一男

ヴォックス音楽吟詠コンクールの播磨地区予選への私の挑戦はもう三十年以上に成ります。

私の所属している吟道賀堂流は、兵庫ふれあいの祭典への出演に重点的に取り組んでおり、私はその合吟の20人のメンバーの一人でした。

合吟の楽しさにはまり、四本の高い大きな声で、声が枯れるまでの練習を20年以上続けて来ました。

兵庫県の男子の部では、ここ15年の間に優勝13回準優勝2回と常に上位をキープしています。ヴォックス合吟は準優勝をした事もありました。しかし、独吟においては最近になりやっと27年に四部四位、28年に五部で四位を頂きましたが、自分の実力はここまでかと自問自答をしていました。無理をして高い本数で吟じていることに気が付き、余裕を持つての発声と、詩の心を理解し表現しようと努めました。

それが今回の第五部準優勝へと繋がったのではないかと考えています。これを機会にさらに精進を重ねる所存です。今大会に携われた関係諸先生方に厚く御礼申し上げます。有難う御座いました。

第六部優勝 群馬地区代表

小野里孝子・越谷桂子・越谷稜乃

田中輝代・金井陽子

私達は何度か合吟で全国大会に参加させて戴きましたが、二位、三位など優勝にはあと一歩届きませんでした。

そのため「今年こそ絶対に優勝したい」と高い目標を掲げ、練習を積んできました。この度念願の「優勝」という栄冠を賜うことができ、大変嬉しく思っています。仕事で5人全員揃うのが難しい中、テープに録音したものを聞いて個人練習もできるよう、工夫をして練習練習をして来ました。努力と工夫、そして練習、又練習・・・皆の努力と思いが、「優勝」へと導いてくれたのだと思います。

「第六部優勝 118 番」と呼ばれた時は耳を疑いましたが、本当に心から嬉しかったです。これもまた、国壮流家元先生、諸先生方のご指導のおかげです。心より感謝申し上げます。これからも「素晴らしい」と言われる吟をいつまでも吟じられるよう精進していこうと、五人で誓い合いました。大変有難う御座いました。



第六部準優勝 播磨地区代表

谷口弘芳・前川健一・丸本善彦

谷口勝己・小林秀一郎

令和元年のヴォックス音楽吟詠会コンクール第40回全国決勝大会に於いて、準優勝の栄冠を頂きました。

去年は優勝をしていたので、去年出場した二名を残し新たに三名が入って特訓を行いました。ひそかに「二連覇」を狙っていただけに、準優勝では昨年出られた先輩に申し訳ないとの思いも有りました。

でも、優勝されたチームの合吟は本当に素晴らしく、そろいの袴姿で五人のチームワークの良さに、負けたなと思いました。

これからも吟友を大切に、日々精進していきたいと思っています。本当に有難う御座いました。





第七部優勝 中部地区代表 舟橋末光

私は、七十六歳です。第二十一回（平成十二年）東京での全国大会・第四部にて優勝をすることが出来ました。あの時の感動は今も思い出として私の宝物です。今年、新しく第七部和歌の部が新設されました。私の様な高齢者に成ると、メモ保持でないと危ぶまれます。メモを持つ事を許可されたことを知り、今回初めて和歌に挑戦しました。時間をかけ和歌の練習した結果として優勝という評価を頂き、この上ない喜びでした。

これからも、吟詠コンクールに積極的にチャレンジをし、この受賞に恥じないように頑張りたいと思っています。



第七部準優勝 近畿地区代表 磯崎廣子

この度元号も新たになり令和元年九月二十九日ヴォックス音楽吟詠会コンクール第四十回全国大会において、今年度から創設された第七部和歌の部で初めて挑戦した本居宣長の「敷島の」で準優勝を頂き驚きました。

全国大会に行く前に長年近畿地区本部長を務めて来られた日本吟道岳龍会宗家岡田岳龍先生にお会いして「良い報告が出来る様に頑張って来ますネ」と言っていたので本当に良い報告が出来嬉しく思いました。でも、四部の漢詩では一瞬詩が飛んでしまい和歌でも又、と思いつき直前まで詩文を繰り返し繰り返し口ずさみ不安を持ちながらの発表でした。次回も全国大会に行ける様に一層の努力し、トップを目指して参りたいと思います。

最後に審査の先生、指導して頂いた諸先生皆様に感謝です。有難う御座いました。

令和3年度コンクール課題吟
令和2年度コンクールは中止致しましたので
3年度課題吟は2年度課題吟で開催致します



漢詩の部

1	九月十三夜陣中の作	上杉謙信
2	春日山懐古	大槻磐溪
3	大楠公	徳川景山
4	楓橋夜泊	張継
5	山行	杜牧
6	九月十日	菅原道真
7	事に感ず	于境
8	海南行	細川頼え
9	春暁	孟浩然
10	常盤孤を抱くの図に題す	梁川星巖



令和2年度行事予定(抜粋)

- ※令和2年度総会 3月 延期
令和2年3月 神奈川地区担当
- ※第41回決勝大会 9月27日 中止
令和2年9月27日 名古屋教育センター
- ※令和2年度課題吟吹込 10月 中止
令和2年10月 サウンドフィールド
- ※令和3年度総会 3月 未定
令和3年3月 神奈川地区担当
- ※令和3年度課題吟吹込 10月 未定
令和3年10月 サウンドフィールド

短歌の部

1	東風吹かば	菅原道真
2	田子の浦ゆ	山部赤人
3	幾山河	若山牧水
4	たわむれに	石川啄木
5	天の原	阿倍仲麻呂

『漢詩』(下平声八庚韻)

『松本城』

『松本城』

☆吟詠諸氏の希望により結句の名称を題詩といたします。

現想鳶飛魚躍昔

げん おも(お) えんびぎよやく むかし
現に想ふ 鳶飛魚躍の昔

主臨樓上憫鋒争

しゅ ろうじょう のぞ ほうそう あわれ
主は 樓上に臨みて鋒争を憫む

及時花教愉觀月

とき およ はな かんげつ たの
時に及びては 花と觀月を愉しましむ

是即凜然松本城

これ すなわ りんぜん まつもとじょう
是 即ち 凜然たる松本城

令和元年八月九日

片倉清風(清彰)作

えんびぎよやく

「語釈」鳶飛魚躍—君子の徳化のよくおよんでいるさま。君子…君主、君王、統治者、

江戸時代松本城主松平直正(家康の孫)1634年に築城完了?。月見櫓…天守閣一体は松本城。別棟は岡山城に在るそうです。徳化—徳行によって人を感化すること。徳行…道徳にかなった立派な行い。品性と行為。鋒争—鋒はほこさき。きつさき。ほこ。また、武器をいう。凜然—きりつとしたさま。身の引き締まるさま。おごそかなさま。

(原爆投下が1954年8月6日広島に十余万人…、8月9日長崎に七万人…、赤紙に縛られ外地で貴い命を捧げられた幾万の方々、各位に心からご冥福をお祈り申し上げます。ところで作詩するにあたり、戦国時代から戦のない江戸時代初期に築造された様ですが、城は戦に備えて作られるのが当然なのに、欄干手摺付きの窓の舞良戸を外し畳敷きの船底天井の部屋で東から昇る月を愛でたのでしょうか。また上洛の帰路に善光寺参詣の宿城になっていた三代將軍家光がこの事について承知していたのでしょうか…。戦争を悼み平和を愛する城主の勇氣は現世に於いても一番大切なことではないのかなど。日常その様な思いで松本城に親しみをもっている次第です。☆以上終戦記念日に因んで余計なことを一言だけ。ご免なさい。)

雑記：令和元年十一月十七日ヴォックス四十周年名流大会が松本市内の会場にて開催されます。その際長野野勢の先生方が松本城に関する絶句を合吟したいからと信越地区本部長の中山国洲先生より不肖私にご要請がございましたので恥ずかし乍、拙詩を献上致しますがご覧頂けますれば幸甚に存じます。かしこ

